

財団法人 日本中毒情報センター 保健師・薬剤師・看護師向け中毒情報

うがい薬 - ポビドンヨード

[概要]

含嗽剤として最も広く用いられている殺菌消毒用の褐色の液剤である。用時希釈して用いる。小児が上手にうがいでできずにそのまま飲み込んでしまうことがある。ヨウ素は水に溶けにくい、担体ポリビニルピロリドンと結合させたポビドンヨードは水に溶けやすく、ヨウ素を徐々に遊離する性質をもち、ヨードチンキのような刺激性がない。

成分(1)はポビドンヨード7%（有効ヨウ素として0.7%）。エタノールを含有する製剤もある。

[毒性]

ポビドンヨード(1)：マウス経口 LD50 8,100mg/kg
ラット経口 LD50 8,000mg/kg 以上

[症状]

通常の誤飲程度ではほとんど症状は現れない

大量服用時：症状が現れるとすれば、悪心、嘔吐、腹痛、下痢（血性）
（胃内にデンプンがあれば、吐物は青色を示す）(2)(3)

ヨード過敏症

[処置]

家庭で可能な処置(2)(3)

大量に飲んでいれば、片栗粉や小麦粉を水に溶かしたのものや、牛乳（120～240mL、幼児15mL/kg以下）、卵などを飲ませる

医療機関での処置(2)(3)

胃洗浄（大量服用時）

1～10%デンプン液または1%チオ硫酸ナトリウムを用いる。

牛乳、微温湯でも可

胃洗浄できない場合は3%デンプン液を数回分割投与、

または1%チオ硫酸ナトリウム100mLの内服

対症療法（ヨード過敏症）

[確認事項]

- 1) 表示の確認：容器に書かれている成分を必ず確認する
- 2) 摂取量の確認：希釈液か、容器から原液を大量に飲んでいるか
- 3) 患者の状態：嘔吐、その他変化の有無

[情報提供時の要点]

- 1) 誤飲であれば、牛乳などを飲ませて様子を見る
- 2) 患者に変化のある場合（ヨード過敏症、嘔吐など）は受診を指示

[体内動態]

ポビドンヨードから徐々に遊離するヨウ素は、消化管内の食物により急速に酸化されてヨウ化物となる(3)。ヨウ化物は、刺激性もなく低毒性で、吸収されたのちは主に尿中に排泄される(4)。ポリビニルピロリドンは、

吸収されずに排泄される(5)

[中毒学的薬理作用]

消化管粘膜の刺激作用(大量の場合)(2)(3)

[その他]

デンプン、タンパク質、チオ硫酸ナトリウムは、いずれもヨウ素を低毒性のヨウ化物に変化させる効果がある

[参考文献]

- (1)日本医薬品集(1997)
- (2)急性中毒情報ファイル(1996)
- (3)救急中毒マニュアル(1984)
- (4)Poisindex(1992)
- (5)Clinical Toxicology of Commercial Products(1984)